

会 議 録

会議の名称		第3回小金井市市民健康づくり審議会（第2回健康増進専門部会）		
事務局		福祉保健部健康課		
開催日時		平成29年3月13日（月）午後7時30分		
開催場所		小金井市役所第2庁舎8階801会議室		
出席者	委員	齋藤寛和会長、木下隆一副会長、新井利夫委員、中里成子委員 玉木とみ子委員、村澤トキイ委員、内山雅之委員、大澤繁喜委員 大西義雄委員、雨宮安雄委員、川畑美和子委員、飯嶋知広委員 藤森寿美子委員、森戸洋子委員		
	事務局	健康課長 當麻光弘、健康係長 平岡美佐 健康係主任 越聖子		
欠席者		小林久滋委員		
傍聴の可否		可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
会議次第		別紙のとおり		
会議結果		別紙会議録のとおり		
提出資料		添付のとおり		

平成28年度第3回市民健康づくり審議会
(第2回健康増進専門部会) 次第

日 時 平成29年3月13日 (月)

午後7時30分から

場 所 小金井市役所第2庁舎8階 801会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 健康増進計画に係る市民アンケート集計結果について

(2) 保健衛生事業について

3 その他

4 閉 会

平成28年度第3回小金井市市民健康づくり審議会（第2回健康増進専門部会）会議録

日 時 平成28年3月13日（月）午後7時30分

場 所 小金井市役所第2庁舎8階 801会議室

出席委員 14人

会 長	齋 藤 寛 和 委員	副会長	木 下 隆 一 委員
委 員	新 井 利 夫 委員	中 里 成 子 委員	
委 員	玉 木 とみ子 委員	村 澤 トキイ 委員	
委 員	内 山 雅 之 委員	大 澤 繁 喜 委員	
委 員	大 西 義 雄 委員	雨 宮 安 雄 委員	
委 員	川 畑 美和子 委員	飯 嶋 知 広 委員	
委 員	藤 森 寿美子 委員	森 戸 洋 子 委員	

欠席委員 1人

小 林 久 滋 委員

事務局職員

健康課長	當麻 光弘
健康係長	平岡 美佐
健康係主任	越 聖子

傍 聴 者 0人

（午後7時30分 開会）

○齋藤会長 皆さん、こんばんは。今日はまた急に寒く、寒の戻りと言うんですか、寒くてしょうがないんですけども、おいでいただきありがとうございます。

それでは、これより平成28年度第3回小金井市市民健康づくり審議会を開催させていただきたいと思えます。

初めに、委員の出欠に関して、事務局のほうからご報告をお願いします。

○平岡係長 まず議事に入る前に、1点ご紹介させていただきたいと思います。平成28年秋の叙勲におきまして、小金井市薬剤師会の大西義雄先生が、旭日双光章を受賞されましたので、ご報告いたします。まことにおめでとうございます。皆様へのご報告が遅くなりまして大変申しわけございませんでした。

それでは、本日の委員の方々の出欠でございますが、木下副会長、小林委員、それから内山先生がおくれていらっしゃるということで、今現在、会長を除きますと11名の委員の方がご出席になっておりますので、過半数以上の出席ですので、審議会として成立することをご報告申し上げます。

また次に、資料でございます。事前にご送付させていただきました資料といたしましては、次第、アンケートの集計結果、平成28年度保健衛生事業、平成29年度主な保健衛生事業、前回の会議録(案)となっております。また、本日、机上に配付いたしましたものとしまして、資料4と5、健康づくりに関する市民調査(平成23年調査との比較)及び健康づくりに関する市民調査(クロス集計の結果)というもの、またウオーキングフェスタ東京のカラーのチラシを1部配付してございます。何か過不足等ございましたら、事務局までお知らせください。

また、事前送付いたしました会議録ですが、訂正のご希望がございませんでしたので、本日、お手元のままご承認をいただければと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

○齋藤会長 ありがとうございます。では、議事に入る前に、事前送付された前回の議事録(案)でよろしいという方は、挙手を願ひたいと思います。

(承認者挙手)

○齋藤会長 全員挙手いただきました。これでよろしいですね。もし追加で何かお気づきのことがあったらということですが、終了までに事務局のほうに願ひしますということです。

それでは、市民アンケート集計結果について、事務局のほうから説明を願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

○越主任 それでは、事前にお配りいたしました分厚い資料ですが、資料1と右上に書いてございます、そちらの資料をまず出していただけますでしょうか。

こちらは、12月に市民の方々、無作為抽出2,000名の方々にお送りしたアンケートの調査結果(報告書案)の速報値になってございます。先にお断りさせていただきますが、速報値をそのまま、できてきたままを皆さんのところに事前資料として配付した関係で、細かい校正はまだ済んでいないものを配付しておりますので、文字の間違ひですとか、表現、文言等は今後修正が入る予定でございます。

まず1ページをおめくりください。この報告書のつくりですが、大まかな様式については、介護や障害、ほかの分野と体裁を整えて、同じような形で報告書をつくっております。最初に質問が来まして、

太字の白い丸、そこはこの回答の一言ポイントというか、簡潔に述べられたポイントです。その下の太字ではない普通の明朝体の字が、この設問の回答内容の簡単な解説というつくりになっております。

今日は時間の都合もございますので資料4を、本日お配りした資料の中から主なものをピックアップしてご説明したいと思います。まず、資料4をお出してください。

こちらは、前回、平成23年に調査を行った結果との比較がまとめられております。設問文や選択肢が若干異なるため、比較グラフなどはあくまで参考として載せていることをご了承ください。この設問の中には、現在の計画で指標となっているものもありますが、その成果や検証については、今後、来年度の専門部会で議論いただく予定ですので、本日は単純な集計結果のみ説明させていただきます。

まず、問1です。「各種健診（検診）の受診状況」です。下のグラフを見ていただきますと、一般的に健診（検診）を受けている割合についてですけれども、健康診査、一般的に特定健診ですとか後期健診ですが、市の健診と他の機関で健診を受けたというのを合わせますと、75%の方が健診を受けていただいています。あと、多いところは、子宮がん検診、乳がん検診も、検診を受けたという割合を足しますと4割を超えています。最後、10番の歯科検診は5割を超えております。

1ページおめくりいただきまして、2ページの下半分が23年度と比較している棒グラフになっております。軒並み、23年度と比べまして、市の健診と他の機関での健診を合わせた健診を受けた方の割合は増えております。

次に、ページをおめくりいただきまして、5ページをごらんください。こちらは「食生活に関して、ふだん意識していること」を聞きました。23年度と同様、「野菜をなるべく食べるようにしている」というのが最も高い割合になっております。ほかの選択肢については、大きな変化はないのですが、軒並み前の割合よりは低くなっているところはございます。

ページをおめくりいただきまして、7ページをごらんください。問9「身体を動かすこと」ですが、こちらは23年度と同様に、「はい」の割合が53%ということで大きな変化は見られません。ただ、選択肢なんですけれども、下の小さな字で注釈がございまして、23年度は「日頃、何らかの運動をしていますか。」という漠然とした質問でしたが、今回28年度については、「1日に30分以上、身体を動かすことを週2回以上行っていますか。」という、より具体的な質問に変えておりまして、それで53%という数字が出ております。

9ページをごらんください。こちらは「習慣的に行っている運動の種類」、複数回答ということで聞いております。相変わらず「ウォーキング、散歩」については高い割合となっております。

ページをおめくりいただいて、11ページをごらんください。問14「睡眠による休養の状況」、睡眠によって休養が十分とれているかどうかということ聞いております。こちらは23年度と比べまし

て、「十分とれている」の割合が若干、3%ほど下がっております。

その下、問15「ストレスの有無」を聞きましたが、こちらは逆に、23年度と比べまして「大いにある」、「多少ある」の割合がかなり下がっております。23年度は合わせますと7割近く、28年度は合わせますと6割弱ということになっております。

2ページほどおめくりいただきまして、14ページをごらんください。問22「飲酒の頻度」を聞きました。こちらは、23年度と比べて飲酒をする人の割合がかなり減っております。23年度は、頻度は別としまして、「お酒を飲む」といった割合が6割ぐらいおりました。28年度は、これが5割に減っております。「毎日飲む」という方も2ポイントちょっと減少しております。男女別に言うと、28年度14.5%というのは、男性は22.8%、女性は9.3%が「毎日飲む」という方の割合になっております。

隣の15ページをごらんください。問23「喫煙の有無」を聞いてございます。こちらもお酒同様、23年度と比べまして、たばこを吸っていらっしゃる方の割合は低くなっております。12%が8.1%です。前回の質問と違うのは、選択肢として「以前吸っていたがやめた」という項目を加えておりまして、やめた方が12.8%もいました。

ページをおめくりいただいて、16ページをごらんください。問26「受動喫煙対策の満足度」を聞いております。23年度は特に詳しい場所を指定せずに、「公共の場についての対策はどう感じますか」という質問でした。今回は、もう少し細かい枠組みで聞いております。「公共機関」と「交通機関」におきましては「満足」、「どちらかといえば満足」が半分以上超えておりまして、7割前後となっております。続いて、「勤務先」については「満足」、「どちらかといえば満足」が56%、「飲食店」については43%、「公園」が48%、「道路」が一番低くて34.1%。そして、道路については「不満」、「どちらかといえば不満」を合わせる不満は5割を超えております。

右側、17ページをごらんください。問30「歯や歯ぐきの健康のためにしていること」ということで、こちらは軒並み、23年度と比べまして歯と歯ぐきのためにしていることの割合が大きく増えております。ほかの選択肢と比べても、ここまで増えているのはなかなか珍しいと思います。

最後のページをおめくりいただきまして、18ページ。問33「『かかりつけ』を決めているもの」ということで、割合としては全ての項目で23年度と大きな変化は見られません。

続きまして、こちらを踏まえまして、資料5をごらんください。資料5はクロス集計をしております。特徴が読み取れるもの、傾向がわかるものについてピックアップをしております。

まず、1ページです。食生活に関して意識していることとBMI、肥満度がわかる数値をクロスして集計した結果が下の表になっております。字が小さくて申しわけないんですけども、BMIですが、

「18未満」が一般的に「やせ型」、「18以上25未満」が「標準」、「25以上」が「肥満」というふうに分けられております。こちらですが、下の段に、食生活で「よく噛んで食べるようにしている」という選択肢がございます。こちらは全体としては、よくかんで食べるようにしている人は26.5%、BMIが25以上の肥満傾向にある人は、よくかんで食べるようにしている人が全体よりもかなり低いです。18.6%の方しかよくかんで食べるように気をつけていないということで、このクロス集計からは、早食いは肥満の傾向にあるかなということが読み取れます。

ページをおめぐりいただいて、3ページです。こちらは、「食事に関してふだんしていること」と、「ふだんの体調」、もしくは「診断の有無」——こちらは糖尿病のみピックアップしております、と「BMI」をクロスして集計しています。

まず、食事とふだんの体調について見てみます。「1日3食、食べている」が、全体で80%の方が1日3食食べておりますが、ふだんの体調として「調子是不よくない」と答えている方は、3食食べている方が64%しかいませんので、全体より15ポイントほど低くなっております。

「朝食を食べている」という質問ですが、全体では74.6%が朝食を食べておりますが、「調子是不よくない」人は54.7%しか食べておりません。20ポイント差がございます。

その隣、「栄養バランスを考えて食べている」というのは、全体として52%ですが、「調子是不よくない」という方は42%ですので、10ポイント低くなってございます。

その次に、糖尿病と食事のクロスですけれども、「医師から注意するよう言われている」というところと、「朝食を食べている」というところをごらんください。65.2%。こちら10ポイントほど、全体よりも朝食を食べている方が割合として低くなっております。

また、その下の段、「甘い飲み物をよく飲む」についてですが、全体としては6.5%なんですけど、糖尿病を注意するよう言われている方は、17.4%の方が甘い飲み物をよく飲むという傾向にあります。

次に、BMIです。下の表ですが、「昼食は外食が多い」という項目とBMIを比べますと、全体としては16.1%。BMIが25以上の肥満傾向にある方は、外食が多い人が32%、倍ぐらいになっております。そうしたことから、ふだんの調子や糖尿病の疾病であったり、BMI、食事と大きく関係することがわかります。

次に、ページをおめぐりいただいて、4ページをごらんください。問16は、ストレスと1日の平均睡眠時間をクロスしています。睡眠時間が少ない人はこういった傾向にあるかということですが、「5時間未満」の人を見ていきます。「朝起きたとき疲れを感じる」という方が、全体が31.1%に対して、睡眠が最も少ない5時間未満は47%、「イライラしている」も21%に対して40%、「ゆううつである」も17.5%に対して31.8%と高い割合になっております。

次に、ページをおめくりいただいて、7ページをごらんください。こちらは、喫煙状況と疾病別診断の有無についてクロスしている表になっています。特徴的なのが、やはり糖尿病のところですが、「糖尿病と診断されたことがある人」というのは、「たばこを吸っている」のが全体で8.5%のところ、約倍の16.2%、喫煙と糖尿病との関係について傾向が読み取れるかと思っています。

次、ページをおめくりいただいて、8ページをごらんください。こちらは、かかりつけ医の有無と健診の受診状況、もしくは歯周病予防についてクロスしています。まず、かかりつけ医ですが、全体で「かかりつけ医を決めている」方は60.1%おります。健診を受診している人は61.9%ですが、受診していない人は47.6%しかかかりつけ医を決めておりません。

歯周病予防ですが、「かかりつけ歯科医を決めている」全体の割合は55.5%ですが、歯周病予防をしている方は69.7%という結果が出ていますので、主治医ですね、かかりつけ医、かかりつけ歯科医を決めている方のほうが健診の受診割合がよく、歯周病予防の意識が高いという傾向が読み取れます。

次、隣の9ページをごらんください。「近所づきあいの程度」について、年代別に見ています。「多くの人と親しく付き合っている」の割合が、80歳代以上で2割を超えて高い割合となっております。

「ほとんど付き合いはない」と回答している割合が高い10代から30歳代の若年層と比べますと、年齢を重ねるごとに近所づきあいをする傾向にあります。世代間により近所づきあいの程度に差があることがうかがえます。

主なクロス集計の結果と23年度調査との比較は、以上になります。

こちらについては、報告書のほうに入れ込めるものと入れ込めないものと、ページ数の制約がございまして、本当は全て入れ込めたらいいんですけども、実際は一部抜粋して入れていくような形になると思います。

また、先ほど申し上げた資料1の全ての設問の報告書につきましては、これからほかの計画との調整や、若干文言の訂正、解説の訂正、校正が入るということで、本来であればこちらで訂正が入ったものをお見せできればよかったです。日数の都合上ちょっと間に合いませんので、今後修正させていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。また次回の審議会の際に、製本された成果物、報告書については、皆様に配付させていただく予定であります。

以上になります。

○齋藤会長 ありがとうございます。アンケートの調査結果報告書の最終校正については、事務局のほうでやっていただくということでもよろしいでしょうか。では、よろしいということですね。

では、内容が非常に豊富過ぎちゃってどうしたらいいのかわからないところもありますが、意見とかご質問ございましたらお願いいたします。はい、どうぞ、新井さん。

○新井委員 新井です。2つ、3つ、別々の質問になるんですけど、まず、資料4の1ページですが、これは人間ドックとか、健康診査とか、胃がんとかあるんですけども、全部出ている数字が100%に対する何%というような書き方になっていると思うのですが、これは我々としては、胃がんを受けた人と健康診断を受けた人は、人数はどうなんだというのが本来あるべきだと思うので。つまり、10人しかいなくてもパーセントは出るし、1,000人いても出るしということで、全体はおそらくN=739になっているんだと思うのですが、要は、それぞれの間ドックとか、子宮がんは別として、その他のところが、受けた人数がどうなのかという資料が欲しいと。ただ比率だけ出ていてもあまり参考にならない。人間ドックを受けた人は何人いるんだろうか、胃がんを受けた人は何人いるんだろうかというような資料が本来はあるべきなんじゃないかと思うんですけども。

それから、今度は全然別の質問なんですけれども、おそらくこの母数がN=739ということだと思っただけなんですけれども、これについての男女内訳が全然出てこないんですよ。実は、後のほうの資料5の5ページのところに、初めて739という数字が出てくるんです。「ストレスがあったときの対処法」という中に出てくるんですけども、全体で739とあるわけですよ。ところが、非常に揚げ足取り的で悪いんですけども、全体が739で、この数字は資料4の1ページの母数にも使われているのだろうと推測しますが、この739という数字を、下の男性、女性足すと739にならない。何人か中性がいるのかという冗談は別として、資料としてこういう、足したら739にならないで、男性と女性以外に誰がいるんだと。

それから、もう一つ下の10代から80代までの数字を足すと、これもまた別の数字で733人なんです。だから、そういう意味で資料としてもう少しきちっとしたやつを出してほしいと。

○越主任 まず、先に2点目の質問ですが、すいません、無回答の方が一定割合おまして、3.4%の方が無回答です。その人数が、ごめんなさい、この表には書いてございませんので。

○新井委員 だったらそういう書き方をしておかないと、これだけ見たのでは男と女を足して739にならない。年代別もならないんです。それを使っているのかなというのが、資料4の1ページ目の「N=739」だと思うんですけども、資料4のほうの質問は、それぞれの項目というか、診断について、母数ではなくて、どれだけ受けているかというようなものが本来あるべきだろうと。

というのは、この後のほうの喫煙の有無だとか、ストレスだとかというのは、全員に対する質問だから、テレビを見ますというのが何人いるとか、これはこれでいいと思うんです。対象が違うんですよ。だからこれを一緒にたに資料をつくるというのは、資料としてはちょっとおかしいと思うんですけども、これは私の意見だから、反論というか、別にご意見があるならそれはあれですが、私としてはそういう感じがします。

○越主任 報告書については、アンケート集計結果の報告ということなので、どうしてもこのような体裁になってしまうことを、すいません、ご理解ください。

実際何人の方がそういった健診だとかを受けているかということなんですが、市のほうでは、年に1回「事務報告書」というものをお出ししていたり、健康課のほうからは「小金井市の保健衛生」というものを皆さんに年に1回お配りしているかと思いますが、その中に具体的な人数、実際に受けた人数が出ておりますので、こちらは一番最新のもがこのピンクの表紙のもの、この間の審議会でお配りさし上げたかと思いますが。その中にがん健診などの実際に受けた人数が載っております。よろしければ、後でまた。

○新井委員 はい、わかりました。

○齋藤会長 ちょっと補足しますと、これは母集団の中の割合を見ているのは、それなりにそれは意味のあることだろうと思います。総数も、それは大事ですけども。ここで問題なのは、無回答の数が各カラムでいろいろ異なるので、その比率を単純に見ていいのかという問題もあるかと思いますが、無回答のところには、おそらく若い年代がたくさんいるはずなんだろうと思いますけれども、そういった分析も必要なんだろうと思います。

ほかに何かございましたら。森戸さん、どうぞ。

○森戸委員 先ほどの説明でわかりづらいなと思ったのですが、資料5の7ページで、ちょっと細かいことを言って申しわけなんですけど、問23「喫煙状況」で、網がかかっている「疾病別の診断の有無と合わせてみると、糖尿病と診断されたことがある人は他の疾病と比べて『吸っている』の割合が、16.2%と最も高くなっています」という言い方が、ちょっとわかりづらいですね。むしろ、「吸っている方の中で糖尿病と診断された方が最も高い」とかいうことのほうが言い回しとしては、私が理解不足なのかもしれないのですが、そのほうがわかりやすいかなと。

なぜかという、「吸っている」の割合が高いと言うんですけども、「吸っていない」人で糖尿病と診断された方も67.6%いらっしゃるわけですね。ですから、聞いているとちょっとわかりづらいなと思ひまして。問題は、吸っている人の中でどういう病気が高いのかということをお願いしたいんじゃないかなと思ひましたので。ちょっと細かいことで申しわけないんですが。

○平岡係長 ありがとうございます。

○齋藤会長 両方から見えないとわからないと思ひますね。

○森戸委員 ええ、そうなんです。

○齋藤会長 大変いい指摘をいただきました。はい、どうぞ、大西さん。

○大西委員 大西です。これはアンケートですから、我々が拝見しても、なるほどと思うところと、あ

れ、おかしいんじゃないのと思うところと例えばあるんですね。たまたま医師会長がおられるので、睡眠のところで、6時間以上寝ればかなり改善というか、大体いい成績が出ているんですよ。ところが、ここの評価を仮にその部会でやる場合は、やっぱり睡眠の質なのだろうと思うんですよ、時間ではないんじゃないのと私は思っているんです。その辺のご見解はいかがですか。

○齋藤会長 私が答えるんですか。

○大西委員 ええ、医師会長さん。

○齋藤会長 齋藤ですが。睡眠の質はなかなか、評価するのはおそらく難しいと思うんです。脳波とか、呼吸の状態とか、心電図とか、そういったものを昼夜ポリグラフでとっていかないとわからないかもしれないです。ですから、単純には時間で見ていってしょうがないんじゃないかなと思います。

○大西委員 そうですか。

○齋藤会長 はい。

○大西委員 それは意見の分かれるところですが。私の質の問題かなと思っているんですが、例えば…

○齋藤会長 730人の人に全部そういった検査をするというのは不可能です。

○大西委員 ええ、不可能ですね。アンケートだから、ある程度しょうがないと思いますけど。

○齋藤会長 睡眠時間で1つの指標にしてよろしいと思います。

○大西委員 ただ、芸能人をはじめ、5時間しか寝てないというのがたくさんいるんですよ。だから、深く寝ていけばいいんだという見解もあるものですから。

○齋藤会長 まあ、ナポレオンは3時間でよかったですよね。大西さんは2時間で。

○大西委員 いやいや、とんでもないです。むちゃですよ。では、そういうことで、難しいだろうということですね。不特定多数ですからね。

○齋藤会長 だから睡眠時間については、短くてもだめ、長くてもだめというのはもう定説になっています。7時間ぐらいが一番長生きということになっています。この結果ではどう導き出されるかわからないですけどね。

○大西委員 わかりました。すいません、ありがとうございました。

それから、ちょっとタイミングがあれで、もう1点だけ。受動喫煙に関しまして、これはご存じのように、オリンピックが2020であるので、今、国会でたまたまこの法案が出るとか出ないとかでもめているところなんですよ。くしくも我々、日本薬剤師会が、全国の薬剤師会において早急に受動喫煙を国会議員に当たってくれと。何が問題かという、30平米の飲食店がどうも国会議員の先生方の中でも、そういうところはしょうがないだろうという意見が、もうかなり強いがあるのだそうです。内容

的に何対何なのかはわかりませんが、それはよくないだろうということで、おそらく三師会、医師会もそう、歯科医師会もそう、薬剤師会もそうなのですが、国会議員に全部当たれという指令が出ています、くしくも私はあさって、15日に東京出身の代議士に当たってきます。当たってきますというか、お話をさせていただく。15日と17日に、手前どもの会長と私と事務局の3人でアポイントをとって、片っ端から当たれということで、二十数名に当たっているところです。

そういうことで、皆さん方はどう思われるかは知りませんが、三師会ではおそらく飲食店、30平米以下でも受動喫煙は困ると、要するに喫煙室を設けてくれと、こういうことなんです。皆さんはどう思われるかわかりませんが、三師会ではそのようにお話ししたいと思っています。

ただ、外国のオリンピックでは全部が、全部って、ここ3大会ぐらいは喫煙室がないそうです。東京だけがそういうのをやるのはおかしいという議論なんですよね。そういうふうに一応、我々三師会としてはそういう意思、一応ご承知いただきたいと思います。

○齋藤会長 ちょっと本題とはずれますけどね。

○大西委員 受動喫煙の問題についてなので、おそらく医師会も回っていると思います。

○齋藤会長 ええ、私もちゃんと議員のところに行ってまいりました。

ほかに何かございますか。

よろしいですか。それでは、ただいまいろいろ出ましたご意見について再度ご検討いただいて、校正等に反映していただければと思います。

それでは、次の議題、保健衛生事業について、事務局からご報告をお願いいたします。

○平岡係長 では、事前にご送付しました資料2をごらんください。お手元に資料がない方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。

平成28年度の保健衛生事業でございます。まず、乳幼児健康診査でございます。こちらのほうは、2月末時点の回数分で受診率等を出させていただきました。年間で24回の予定をしてございまして、22回までの実施分でございます。受診率のほうは、おおむね97%弱から97%というところで、27年度からは若干の動きがございますが、おおむね同率の受診率で推移してございます。

3～4か月児健診が終わった後、乳児診査に対しましては、電話や訪問等、赤ちゃんとお母様のお声を聞いて、お顔を見て無事を確認しているといった状況を今後とも地道に継続していきたいと思っております。

2ページ目をごらんください、がん検診についてでございます。こちらは下の注意書きで、「対象者」という数字は、毎年度ご説明をしているかと思いますが、対象人口率に基づき算定しておりまして、実際に市のほうで実施するがん検診を受けるであろう対象者数というところで算出をしてございます。市

の、例えば35歳以上の方がこの人数ということではないです。

また、子宮がん検診、乳がん検診は、平成28年度の受診者数に関しましては、1月末時点での実施者の数となっております。

こちらのほうでございますが、まず、胃がんのほうは、前回は対象者数で受診者数を割りますと3.71%というところですが、今回、平成28年度は4.47%で若干の受診者数が増加しております。

子宮がん、乳がんにつきましては、1月末現在の人数でございますが、今現在、対象者等で受診者数がまだ終わっていない検診がございますので、まだパーセンテージまでは出せない状況でございます。おおむね同程度かと今のところ考えてございます。

肺がん検診でございます。肺がん検診につきましては、昨年度1,066人に対しまして、1,316名の方が受診されております。対象者数で割り返しますと、27年度が2.56%に対して、受診者数が3.17%ということで、胃がん、肺がんともに伸びている状況でございます。

大腸がん検診につきましては、平成27年度が医師会の先生方のご協力を得まして8,060名の受診者がいらっしゃいました。今年度に関しましては、6,828名となっております。受診率に関しましては、17.54%というところになってございます。

いずれにしても、まだまだ検診につきましては、受診率が全体的に低い状況でございますので、来年度は勸奨、再勸奨に力を入れて、受診率の向上を目指していきたいと考えてございます。

下の段、(2)番の胃がん・肺がん検診は、一応、受益者負担導入前後の比較ということで数字を並べさせていただきます。受益者負担を導入した後も、胃がん、肺がん検診につきましては微増してございますが、今後とも、胃がん、肺がん検診の受診率のさらなる向上を目指し、医師会の先生方とご協力しながら検診の充実を図ってまいりたいと思っております。

続きまして、3ページ目をおめくりください。健康相談でございます。平成27年度、28年度を比較してございまして、28年度は2月末日時点での参加者数ということで書かせていただいております。また、成人健康相談ですが、27年度は保健師のみでの成人健康相談も実施をしていたところなんですが、28年度からは医師会の先生方と一緒に保健師とともに成人健康相談を行わせていただくということで体制を若干変更いたしまして、実施回数のほうが年19回ということで絞らせていただいております。

成人健康相談につきましては、おおむね、今、17回で割り返しましても、前年度と同様3.83、3.82、1回につきそのぐらいの人数になってございますので、丁寧に見てくださってうれしいというアンケートの声も伺うんですが、もう少し、皆様、市民の方へのご活用と周知を図ってまいりたいところでございます。

また、歯科健康相談でございます。こちら年12回の実施回数でございます。27年度は1回につき2.16人というところで、28年度は今のところ2.18人というところでございます。こちらのほうも先生方になかなか歯の相談というのが、歯科の治療のときになかなか言い出しづらくてというところで、ゆっくり聞いていただいてよかったというお声を利用者からは頂戴しておりますが、さらに、気軽に歯の疑問に思っていることとか、不安に思うことに対して、市でこういった相談事業をやっているということを周知を図る必要があるかなと考えてございます。

また、栄養個別相談でございます。こちらのほうは、保健センターのほうで管理栄養士のほうが相談に乗っているところでございますが、27年度は1回の相談回数が大体5人以上来ていたところがございますが、28年度は6名以上の方がご参加、栄養の相談をされているというところで、小さなお子さまを持つ方からなかなかしゃくが難しいご年代の方まで、さまざまな方がこちらの栄養個別相談を利用されている状況でございます。

また、健康講演会でございます。こちら、27年度、28年度、医科、歯科ともに分けて書いてございます。こちら、今現在記入させていただきましたのが、28年度の2月末日現在の参加者数でございます。歯科のほう最終の数字が46名になってございまして、前年度よりも4人減というところでなっております。講演内容と関連のある方々への周知等、工夫を図ってまいります。

5番、健康づくりのフォローアップ指導教室でございます。こちら、教室のほうは、去年と同様に、疾病別、年代別で教室の展開をしております。28年度はまだ3月17日実施分と3月11日実施分の数字は除いて掲載してございます。実施回数は、平成27年度同様、実施回数でいきますと14回実施を予定しているところではございますが、平成27年度が延べ人数307名ご参加いただいたところですが、今現在のところは273名というところで、あと2回残っているという状況でございます。

続きまして、4ページ目をおめくりください。予防接種でございます。高齢者肺炎球菌ワクチンの接種でございます。こちらは、接種対象者が今年度、5,335名ということで、4月下旬にご案内を送付いたしました。1月までの集計で1,351名というところで、平成27年度が1月127.8名に対し、平成28年度が今の時点で1月当たり135名を超えているという状況でございます。こちら、対象者は65歳からの節目年齢の方で、ワクチンを接種したことがない方にご案内を送っているという状況でございますが、1年前の平成29年3月1日現在と平成28年3月1日現在の65歳以上の人口が439名増となっております。これから先もどんどん65歳以上の方が増えていく傾向にあるのかなとは思いますが。

続きまして、5ページ目をござらんください。こちら、高齢者インフルエンザの予防接種でございます。こちら10月15日から12月28日までの期間で、市内在住で65歳以上の方で実施をさせていた

だいたところでございます。こちらが、三鷹市、武蔵野市の相互乗り入れの分が4月にならないと人数が出ないというところで、今回、三鷹市、武蔵野市で接種した方は抜いた数字で、今現在わかっている数字で接種者数を出してございますが、229名増という接種者の数となっております。

6ページ目をごらんください。成人風しん抗体検査（東京都事業）及び成人風しん予防接種でございます。こちらは、おおむね、例年人数は150前後を推移してございまして、平成27年度が153、平成28年度が150人の方が風しん抗体検査を受けられてございます。また、風しんの予防接種を受けた方は、抗体検査で抗体価が十分でないと診断された方を対象に行っておりますが、80名前後で推移してございます。28年度が80名というところでございました。

こちらが平成28年度の保健衛生事業の比較でございます。

次に、1枚の資料になってございます資料3をごらんください。こちらのほうは、平成29年度の主な保健衛生事業を抜粋いたしました。平成29年度当初予算額が8億3,954万2,000円ということで、対前年比が1,632万円増ということになってございます。保健衛生事業としましては、健康課事業で47事業持っております。

平成29年度の新規事業でございます。妊婦面接に要する経費というところで、今、妊娠をされたお母様で、胎児のこと、出産のことで不安に思っている方とか、また体調やそのほか社会環境等、自分の子育てに関するあらゆる不安を少しでも軽減していこうということで、保健師による相談事業を開始することとなりました。面接相談の実施をしまして、その方に適切な、支援が必要な方に、早期に関連各課に連絡をとり、支援に当たるという形で子ども家庭部門と強力しながら行っていく事業を開始いたします。こちら、面接事業に関しましては、6月1日から開始する予定でございます。

また、負担金・補助金に関しましては、在宅使用済注射針回収事業補助金ということで、長年、薬剤師会の先生方が、各薬局で注射針の回収の事業を行ってきていただきました。こちらのほう、在宅医療の廃棄物の注射針の使用が増える一方で、なかなか市の事業としても、医療廃棄物が一般家庭ごみにまざることで感染症が蔓延するということを防ぐために、わずかではございますが、今回、補助金として市でも負担をしようというところで補助金事業をさせていただきます。

また、B型肝炎ワクチン接種に要する経費でございます。こちらは、平成28年10月1日から定期接種化されました。28年度は補正予算で対応させていただきましたが、29年度から、ゼロ歳を対象に27日以上の間隔で2回打つ定期接種でございまして、こちらの要する経費を計上してございます。

また、レベルアップの事業でございます。こちらは、成人歯科健康診査等に要する経費の中で、成人歯科の健康診査を今まで、28年度までは35歳から80歳までの5歳刻みで成人歯科健診を実施してきたところでございますが、5歳引き下げて若いころからの歯科のケアと歯周病予防というところで、

30歳から80歳の節目年齢に引き下げたところでございます。

平成29年度の主な保健衛生事業は以上でございます。

○齋藤会長 ありがとうございます。それでは、ただいまの説明にご意見、ご質問ございましたらお願いいたします。これまた大分多岐にわたっていて、理解するのが大変なんですけど。大西さん、どうぞ。

○大西委員 医と歯医者さんのほうで、特に歯医者さんのほうの健康相談というのは、差し支えなければテーマがわからないので、テーマを1つ、2つ教えていただければありがたいと思います。人数がどうのこうのじゃなくて。差し支えれば……。

○大澤委員 講演会のほうはテーマを毎回決めてございます。当然、テーマの題目次第では、ご来場になる方の数にかなりの幅が。だから、インパクトのある、技術性の高いものをテーマにすれば、その講演会はかなりのご入場者がおありになるのは事実でございます。

ただ、最新技術だけの話というわけにもいかず、どうしてもそれに波が出てくるのは事実かというふうには認識しております。今の執行部はいろいろとインパクトのあるキャッチコピーを添えてポスターをつくってございますので、以前よりは微増ではありますが、ご来場者の方が増えてきていただいているというふうに理解はしてございます。

○齋藤会長 医科のほうは、何回、8回？

○大西委員 医科はわかりますよ。わかります。

○齋藤会長 わかります？

○大西委員 いろいろあるわけですから。

○大澤委員 ごめんなさい。実例ですよ。

○大西委員 ええ。

○大澤委員 3月が何でしたっけ。3月、結構よかったですよね。

○平岡係長 義歯のお手入れとか、義歯のお悩みとか。

○大澤委員 そうですね。義歯のメンテナンスの話を、結構いいキャッチコピーだったんですが、済みません、私、忘れてしまって思い出せないんですが。それで、わりと多かったですよね、3月はね。ですから、インパクトのある誘い方をすると、それだけの手応えはあるというふうに認識しております、今の執行部はいろいろと手をかえ品をかえキャッチコピーを考えてくれているようですので。

○大西委員 ギシって、ギシですか。

○大澤委員 義歯、入れ歯の話。

○大西委員 入れ歯の話、ああ。

○大澤委員 要するに、長く使おうみたいな、そういうところにちょっと、今まであまり焦点の当たらなかつたところに焦点を当てたのも今回多かった理由かとは思いますが。申しわけございません。私、突然なので、どういうふうなキャッチコピーを添えたか、そらんじれなくて済みません。

○大西委員 いいえ、とんでもないです。ありがとうございました。

○雨宮委員 それについて1つよろしいですか。

○齋藤会長 はい。

○雨宮委員 医科のほうでは、この健康講演会の開催時間帯は大体何時ごろ、同じなんでしょうか、医科も歯科も、開催時間帯というのは、

○齋藤会長 医科は土曜日がメインでしたっけ、二通りあるんですよ、たしか。医師会館でやるものと、どこでしたっけ。

○平岡係長 健康講演会は、基本、前原暫定等で行ってございまして、1時半から3時までです。医科も歯科も同じ時間帯で行っております。

○雨宮委員 ありがとうございます。

○齋藤会長 医師会館のはなかったでしたっけ。

○平岡係長 医師会館でも、医師会が主催の健康講演会はありました。8回のうち3回が。

○齋藤会長 3回が医師会館。

○平岡係長 はい。で入っております。

○齋藤会長 こちらは土曜日メインですね。昼間のさつき1時半とおっしゃったのは木曜日が多いんです。したっけ。

○平岡係長 そうですね。主に木曜日が多いです。

○齋藤会長 という状態です。

○大澤委員 よろしいですか。

○齋藤会長 大澤委員、どうぞ。

○大澤委員 1点。1歳半と3歳児健診に関しましては、歯科と医科と両方出ているんですが、97%超えという数字に行政の方は酔えると思うんです。ただ、現実的には、天気勝負なんです。真夏のめっちゃめっちゃ暑い日、冬の北風の吹きすさぶ日は、要するに、ブッキングしていてもお見えにならない方の率が増えるんです。だけど、その方々は次のときに必ず予約をなさっている。その数字が97なんです。それに加えて、実は2時とかからやるんです。それで、1歳半ならまだしも、3歳で夫婦がお仕事を持っていらっしゃる、何が起きるかという、おじいちゃんおばあちゃんが駆り出されるということになります。

それと、場所が、思い起こしていただくと、保健センターなんです。1歳半の子供を連れて、場合によっては、上の子が3歳から4歳の子を連れた状態で保健センターまで通うことの問題点を何も感じないで数字に酔うのは、やっぱり、僕は、行政担当者としては許せないかなという気がいたしました。

我々にとっては、天気の悪い日に当番に当たるとうれしいんですね、楽ができるから。ところが、天気のいい日に当たると、もう血みどろなんです。もう次から次へと口が渴いて喉が痛くなるような状況下で健診をするわけなんです。

数字に酔う前に、やっぱり行政サービスの本質を考えるべき時期のような気はいたしました。というのは、やはり、若い人たちが夫婦そろって仕事を持つというのは、これから明らかに日本の社会で一般化する可能性が高いと思うんです。その状況下でサービスを2時半から駅からはるばる離れたところでやるということのサービスの質の問題を考えるべき。これだけは医師会がどう頑張っても、歯科医師会がどう頑張ってもできるわけではないので、これは行政側の問題かというふうな気はいたしました。

97%の受診率は、私は、やっぱり、健康診断としては驚異的な数字だと思いますし、それによって現実的には虫歯が減っているのは明白な事実。私が3歳児健診をこの市で始めさせていただいたときと今と全く様変わりしたと思うんです。だから、この事業の果たした役割というのは私は大きいかなと思うんです。思うんですが、行政の方には、私は数字に酔ってほしくないなという気がいたします。多分、ほかの方は、この数字だけ見ればすごいねで終わってしまうと思うんですが、もしかしたら何人かの方はお孫さんを連れてあそこまで行ってきてと言われた可能性もあるかとは思いますが、それが小金井の現実だというのもご認識なさっていただきたいかなとちょっと思ったので、済みません、余分ですが。

○平岡係長 場所に関しましては、やはり、さまざまところで、市の端っこに保健センターが位置しているものでございますから、その位置の問題は私どもとしても重々問題があるというところでは認識を持っているところでございます。また、集団健診で、やはり、時間が決まっていて、限られた時間の中で来ていただくというところでなかなか難しいというところも承知してございます。

また、集団健診の中で、私どもの専門職が伝えられる情報ですとか、あるいは私どもがお母様の表情等を見てそこから得る情報もかなり大切な機会と捉えてございまして、立地の問題は今後の課題として、またどうすべきかというところは市として考えていかななくてはいけないところですが、集団健診の大切さというところでは、今後とも、お母様とお子様の状況把握の大切な機会として継続していきたいと考えてございます。

○齋藤会長 よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。

○大澤委員 もう1個いいですか。

○齋藤会長 どうぞ。

○大澤委員 1歳半、3歳児健診って、実は、ちゃんと椅子の上に座らせるんです、歯科健診に関しては、学校健診の健診制度ではないんです。格段に高いんです。ですから、その環境を与えていただいた行政の方には、我々は心から感謝したいと思っております。その意味では、学校健診みたいに、前に立たせてのぞくだけのものと、ちゃんと寝かせて見れることの健診角度の高さは、私は桁が違うぐらいあれだと思います。そういう、環境をつくってくれた行政の方には、私は感謝と称賛をしたいと思っております。

○齋藤会長 それはあの場所だからできたということですよ。

○大澤委員 そうです。ちゃんと椅子が置いてあったからできたわけです。

○齋藤会長 広さがあって、いろんな設備が整えられるところですよ。あれが移動する場所でやっていたらなかなかできないと思うんですよ。

○大澤委員 かなり厳しい可能性が出ると。

○齋藤会長 難しいところですよ。

○大澤委員 はい。ただ、あまり責めてもいけませんし。移動用の椅子を買ってもらえれば一番いいですが。

○雨宮委員 ちょっといいですか。

○齋藤会長 はい、どうぞ。雨宮さん。

○雨宮委員 ちょっと別な話だと思うんですけど、インフルエンザのところなんですけど、65歳以上の人は何人ぐらい。

○平岡係長 人数ですか。

○雨宮委員 人数。これは、インフルエンザを受けた方ですよ、9,800って。

○平岡係長 そうですね。今、平成29年の3月1日現在の65歳以上の方が2万4,950人になります。

○雨宮委員 2万。

○平岡係長 はい。1年前よりも439名増加しています。

○雨宮委員 じゃ、年々増えてる。

○平岡係長 そうですね。

○雨宮委員 それから、この9,839名のインフルエンザ予防接種を受けた方で、インフルエンザにかかった人って何人ぐらいいるの、聞いてませんか？

○平岡係長 そのあたり、予防接種を受けた後の状況等はわからないんですが、申しわけないです。

○雨宮委員 実は、私、これを受けてるんです。11月末あたりですか。もしも、忙しい年度末とか、正月とかあったり、いろいろ年末忙しくなるんで風邪引いちゃいけないということで受けたわけなんですけれども、実は、この1月の末、私、インフルエンザにかかりまして、39度ぐらいの熱が出まして、それで、4日間、軟禁状態で外に出られなかったような状態だったんですけど、インフルエンザの予防注射は効くのかどうかちょっと最近、不審になってきた気がするんですけど、先生方から見てどうなんでしょうかね。

○齋藤会長 また責められちゃう。齋藤です。インフルエンザの予防接種は、予防とっていいかどうか分からないんです。予防する力というのは50%あるかないか、もっと低いんじゃないかと最近は言われています。何を予防しているかという、かかることの予防じゃなくて、重症化を予防するということです。インフルエンザにかかって亡くなる方を減らすと、こういうふうに考えていただきたいと言っているのが上のほうの人たち。

我々も、確かに、注射している方がかかると申しわけないと思うんですけど、その部分を返すというわけにもいかないですし、その辺は我慢していただきたいと。

○雨宮委員 雨宮です。A型だったんです。トイレに行こうと思ったら、トイレの前で倒れちゃって、立ち上がることができないんで近所の人に手伝ってもらったということがあった。それで、ちょっと皆さんにご迷惑かけちゃっていろいろありましたんで、これ、インフルエンザやって、それで、ちょっと何か考えて……。

○齋藤会長 それぐらい、最初は重症だったのに生き残っていただいた。

○雨宮委員 そうです。

○齋藤会長 効果があったんだと思っていただければと思います。

○雨宮委員 ありがとうございます。それと、ちょうど忙しかったんですよ、インフルエンザにかかる前ですね。いろんな資料を出す仕事があったものですから。そんなのもあったし、新年会、うちの協会が開かなくちゃいけないということで、資料をつくったりいろいろしてたもんですから、その疲れも出たのかなと思ったんですよ。

それと、あと、うちのメンバーが、そのとき大分インフルエンザにかかったんです。何人受けたか聞いてみなかったんですけど、入院した人が2人ぐらいいたんです。ちょっと、年とって、私なんかは年いってますので、あの人たちかわいそうだったなと思って、入院した人とかね。ちょっとお話だけ、済みません。

別に先生たちを無責任だとは言ってます。私自身がちょっと忙しかったというのもあったんで、そういうことです。済みません。個人的なことを。

○齋藤会長 わかりました。もう少し、啓発活動をしていきます。ワクチンを打たれても熱が出たらすぐにかかるようにということですね。今、お薬がとてもいいので、熱が出て2日間ぐらいのうちに始めれば大分楽になりますので。大西さん、どうぞ。

○大西委員 済みません、私ばかりで。大西です。

ちょっと確認させていただきたいんですが、資料3の29年度の保健衛生事業の真ん中にある負担金・補助金で、薬剤師会のことがおかげさまで載ってるんですが、これはもう議会通ったんですか。

○平岡係長 はい。

○大西委員 通ったの？

○平岡係長 はい。

○大西委員 これ、いつからなんですか。

○平岡係長 4月1日から。

○大西委員 4月1日。

○平岡係長 はい。

○大西委員 ありがとうございます。これは、実を申しますと、3回ぐらい申請して全部切られてたんです。それで、赤字というか、注射針を、実は、濡れティッシュってありますよね、かたい入れ物、あれを紙が入っていても入らなくても業者から買うと100円なんです。その100円を大体2カ月に1回ぐらいで、うちあたりだと5つぐらい使うんですけれども、注射針たくさん入れてもらってですね。1個100円なんで500円かかるんです。それを今まで10年間自腹でやってきたんです、各薬局が。そういう事情をお話しして、3回申請したけどだめだったんです。これ、年間20万ですから、月に直したら1万七、八千円なんですよ。それが、行政側に金がないということで切られてきた。今回、初めて通してきた。大変ありがたいと思っております。年間で、それこそいいますと、これは3年ぐらい前のデータですから、そのときには42万かかっているんです、実質だけです。ところが、おとし、東京都の環境局というのがあるんです。そこから、各行政、23区をはじめ東京都全部、僕らだったら小金井市役所に、薬剤師会から申請を出しなさいと、そうすると2分の1補助なんです。42万かかってたから、じゃ、42万申請します。それでも、その手続すらやってくれないんです。行政が腹を痛むわけじゃないんだから、書類を出してくれば東京都から補助が出たんです、この20万というの。

ところが、今回のこの20万というのは、ありがたいことに、金がない小金井市から出ているんですよ、そうでしょう。だから、今度、我々は、また小金井市に働きかけて、書類を東京都に上げてくださいというお願いをしようと、それがどうしてなのか出てない。かんかんになって私は怒りましたよ。何で1万七、八千円が出ないんだと、幾ら金がない市だといったっておかしいでしょうと。在宅で今注

注射針がどんどん増えているんです。だから、ほんとうに今回のこの20万でもありがたい。ありがとうございました。ということで、実情を言いました。

23区は全部出てるんです。多摩地区が出てないんです。格差ですね。ところが、薬剤師会から出ないというのは、薬剤師会から申請すれば出るよとって、申請していないだけの話なんです。おかげさまでうちは4回目を通していただきました。ありがとうございます。これから増えますから、在宅で、注射針。だって、いろいろありますよ。生保の方が亡くなられて行ってみたら、段ボール1つあるんですよ、注射針。それをしようがなくて行政に持っていったらいい。そうしたら、行政、行政というのは市役所ですよ、断っちゃう。どうしようもないわけです。薬剤師会がやってるから薬剤師会へ持って行って、うちが引き取ったわけです。それ、ただ引き取っているわけです。うちもこれを引き取って信頼される業者に預けるわけですから、お金かかっているわけです。あるいは、道ばたに捨ててあった注射針を持ってきて、清掃業者が今いるでしょ、持ってくるんだから、うちの会館に。それも引き取った。そういうこともあったんです。そういう実情をお話ししても、前の行政の方はだめだったです。何を考えているかわからない。ということで、今回はありがとうございます。

○齋藤会長 今度の行政の方はよかった。この調子でお願いいたします。圧力をお願いいたします。ほかに何かございますか。

○森戸委員 済みません。先ほど、1歳半健診と3歳児健診の歯科健診のお話があったんですけども、時間帯の問題含めて、私もやっぱり改善してほしいなど、私自身も子育てをしているときに、子供がちょっと寝つくところに連れていかなきゃいけないというお昼寝の時間ですね。それは、すごくぐずる子を連れていかなきゃいけなかったりとかもあったので、そのあたりは先生方のご協力もいただければ何かもう少し改善ができないかなということと、それから、かなり、やっぱり、医療の技術が進歩していて、前は口移しもやっていたことがあったんですが、もうそれはだめだそうなんですよね。

○大澤委員 虫歯は家庭内感染だと。

○森戸委員 そうなんですよね。私も孫を持って初めてそういうことを娘から聞いて、随分、子育ての中身が変わってきているし、日光浴もだめだと、紫外線には当てられないということなどを含めて、もう少しイクジイ、イクバアの啓発活動というんですか、そういうことを広げるということも、何か市のほうでも考えていただければ非常にありがたいなど。

最近、親の近くに住む子育て世代が多くなっているという統計もありまして、その点からすると、やっぱり、イクジイ、イクバアの果たす役割も大きくなっているんじゃないかと思っておりますので、一応、問題提起としてよろしく申し上げます。

○齋藤会長 身近な身内による地域包括ケアシステムということですね。

○森戸委員 そうですね。

○齋藤会長 大変いいご意見だと思います。そういうことができない方をどうするかということもありますけれども、確かに、母親教室だけでなく、ばあちゃん教室、ばあちゃんじいちゃん教室、そういうのもあってもいいかもしれないですね。

ほかに何かございますか。大体出尽くしたようですね、よろしいですか。

この会議が終わった後でまた何かご意見がございましたら、直接事務局のほうにお伝えいただければと思います。

本日の審議はこれで終わりということによろしいですか。お疲れさまでした。ありがとうございました。

あと、連絡事項が幾つか。

○平岡係長 次回の開催予定をまたご案内しますので、5月の25か26ぐらいでできればと考えてございます。皆様のお手元にファクス用紙でお配りしているかと思いますので、お手すきのときにそちらを送っていただきまして、できましたら、3月23日ぐらいまでにお返事いただけると。集計とらせていただいて、人数が多いほうで、お日にちを決めたいと思います。

○藤森委員 最後にいいですか。

○齋藤会長 はい。

○藤森委員 済みません。皆様にお配りしたウオーキングフェスタですけれども、4月29、30で小金井公園出発で開催されます。健康づくりということで、皆さん、審議会の方もぜひご参加のほどよろしく願いいたします。

○齋藤会長 次回の開催日についてはそれでよろしいでしょうか。書類を皆様、お願いいたします。

では、ほかになければ。

○森戸委員 済みません。私は、これで任期が終わりまして、私、外させていただくこととなりますので、短い期間でしたが、いろいろ勉強させていただきまして、ありがとうございました。また当選した暁にはぜひ出たいとは思っておりますが、どうも世話になりまして、ありがとうございました。(拍手)

○齋藤会長 改選なんですか。

○森戸委員 市議会議員はね。

○平岡係長 そうですね。

○齋藤会長 我々もかわって。

○森戸委員 そうなんですか。

○平岡係長 審議会の皆様はまだちょっと期間が多分あるかなと。団体の推薦の方は、また団体の推薦

のご事情でかわられることはあるとは思いますが、

○齋藤会長 医師会は多分、会長がやることになっているので。

○平岡係長 そうですね。

○齋藤会長 多分、私もこれで最後。

○平岡係長 5月までは。

○齋藤会長 5月までやるんだ。済みません。もう1回、お耳汚しをいたします。そうでしたね、制度が変わったんです。

それでは、今日の審議会はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。

— 了 —